

第1回 学校運営協議会 グループディスカッション メモ

(1) 地域との連携・協働（学校運営協議会の活用）

地域との連携、情報発信（広報誌等）、学校に来校する機会を増やす。

進学先のアピールをするのがよい。

県や町でコンソーシアムを立ち上げる。中学生との交流を増やす。

中高連携の取り組み（アシスト授業、サマーセミナー、ソフトテニス部の合同部活動）は、アンケート結果での評価が高い。

これらが地域や中学生に認知されず、進路希望につながっていない。

(2) 進路指導の充実・部活動の活性化

総合選抜型の入試に対応するために企業体験等を使う。（進路実績をあげる）

高校でやりたいことを明確にできるような指導ができていないか。

福祉医療に携わる人材の育成をする。

済美寮の入寮者が増加している。この流れを持続可能なものにしていく。

部活動の種類が少ない。

部活動の活性化（野球部の活躍）を地域の人々に応援してもらう。

(3) 探究活動の充実

コミュニケーション力を上げる（大人、子供同士の交流）交流の場をつくる。

教育課程（授業）に、「地域」を盛り込む。地域の課題解決、地域貢献、伝統文化の伝承などを前面に打ち出す。「地域に根差す人材」の育成。

(4) 学校PRの強化

少人数教育をアピール

海外との交流（姉妹校 など）

HPの更新が遅い。HPが魅力的ではない。

生輩が作成した寮のY o u T u b eを見て入る生徒もいる。しかし寮がきたない。

寮があることやSNSを利用するのがよい。

私学の中高一貫校は、5年間で授業を終わらせる。その後の1年は大学受験対策。

中高一貫の強みを活かすのがよい。学校パンフレットの中高一貫教育の内容が弱い。

生徒だけでなく保護者にいかに伝えるかが大切である。

身延中学校の向学館、南部中学校の未来塾のような塾の設置などを検討してもよい。

公私比率があるが、通信にいく生徒も多い中で、通信にいく生徒も取り込むことも必要。

紙媒体の広報は時代遅れ。SNSで積極的に情報発信していくべき。

保護者にアピールする。小さな所からPRする。卒業生にも協力してもらうのもよい。

私学にいく生徒が多い中で、勉強することが楽しいと思ってもらうのがよい。

塾に講師をお願いしてもらったらどうか。同窓会で運営してもらうのはどうか。他校も塾講師を

外注をしている。

クラウドファンディングの利用。

部活動を中学校と常に一緒にできないか。

早川町ではメディアのプロを入れてのSNSを強化 => とにかく挑戦することが大事

(5) その他

身延山を訪れる外国人を分析して、何をしたら人が集まるかを分析する

なぜ身延高校が選ばれないのか。を分析する。

部活動に入っていない生徒が増えている。

児童生徒数の減少を受けて、峡南地域からの希望者で定員を埋めるのは不可能。

募集を広げていく。